

事業評価シート

番号 2140020 005

【1.基本情報】

事業名	オープンキャンパス開催				
担当部名	薬科大学	担当課名	教務厚生課		
未来地図政策	知の拠点である高等教育機関の充実や連携の推進		政策コード	1 - 3 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成13年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	本学への関心を深め、受験者数の増加、質の高い学生の確保を図る。				
事業の内容	本学入学希望者に対して、施設内の公開、ミニ講義、研究体験等を、保護者に対して説明会等を実施する。				
事業の対象	何を	施設内の公開、ミニ講義、研究体験など			
	誰に (対象者・対象者数)	本学入学希望者及びその保護者			
	どのくらい (具体的 数値で)	年1回開催、午前・午後の部×2日間			
令和元年度 (実施内容)	本学入学希望者519名に対して、施設内の公開、ミニ講義、研究体験等を、保護者373名に対して説明会等を実施した。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	7,513	237	7,513	237	8,058	237
嘱託職員	834	81	824	80	832	80
アルバイト	0		0		0	
計(A)	8,347	318	8,337	317	8,890	317

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		202	330	356
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	記念品	172	194	195
	保険料	30	28	30
	食糧費		107	131
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		202	330	356

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	8,549	8,667	9,246

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	8,549	8,667	9,246

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	参加者(保護者含む)	参加者(保護者含む)	参加者(保護者含む)
受益者数	907	820	892
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	9,426	10,569	10,365

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	参加者数(高校生等及び保護者)	単位	名
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	600(高校生等定員)	600(高校生等定員)	600(高校生等定員)
実績値	高校生等525名、保護者382名	高校生等469名、保護者351名	高校生等519名、保護者373名

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	薬学研究体験の参加者がアンケートで良かったと回答する割合(5段階評価中の「5」)	単位	%
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	100	100	100
実績値	67.1	66.6	66.8

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	国公立大学の9割以上の大学でオープンキャンパスを実施しており、少子化が進行する現在、オープンキャンパスの実施は学生募集の観点から不可欠。 オープンキャンパスを行うには、本学が主催する必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	人的コストなどで費用がかかっているが、アンケートでは参加者の66.8%が「よかった」と回答しており、一定の効果がある。 オープンキャンパスを行うには、本学が主体となって開催する必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	令和2年度新入生アンケートでは、28.2%が影響したと回答しており、学生募集に一定の効果がある。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	他大学のオープンキャンパスで受益者負担額として参加料を徴収している例はなく、当イベントの性格上、参加無料が適当。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	今後も、参加者のニーズをくみ取り、満足度を高めるようなプログラムを提供し、継続的に実施していく。

事業評価シート

番号 2140020 - 009

【1.基本情報】

事業名	市民公開講座				
担当部名	薬科大学	担当課名	教務厚生課		
未来地図政策	知の拠点である高等教育機関の充実や連携の推進		政策コード	1 - 3 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和59 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	薬学単科大学である本学の特性を生かした講義を行い、地域医療に貢献し、地域に開かれた大学を目指す。	
事業の内容	本学教員を講師として、「健康」をテーマに、健康であるために日常の食生活の中で気を付けることや、生活習慣ではどんなことに気を付けるべきか、くすりについてなどの講義（年5回）を行う。	
事業の対象	何を	本学教員が講師の市民公開講座
	誰に (対象者・対象者数)	一般市民、定員100名
	どのくらい (具体的 数値で)	年5回開催
令和元年度 (実施内容)	「健康と食とくすり」をテーマに、年5回、9月28日から11月2日の間で開催	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	634	20	634	20	680	20
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	634	20	634	20	680	20

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		162	145	90
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	報酬費	75	75	75
	消耗品	17	1	15
	印刷製本	69	69	
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		162	145	90

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	796	779	770

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料	100	110	155
その他			
計(F)	100	110	155

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	696	669	615

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	公募した受講者	公募した受講者	公募した受講者
受益者数	40	44	54
受益者負担額(千円)	100	110	155
受益者負担率(%)	12.6%	14.1%	20.1%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	17,400	15,205	11,389

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開催回数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	5	5	5
実績値	5	5	5

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	受講者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	100	100	100
実績値	40	44	54(当日参加延べ41)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	中	募集定員より4~5割の欠員があるが、地域医療に貢献し、地域に開かれた大学を目指すという目標の下、生涯学習の場を提供することは重要。 薬学単科大学である本学が主催して行う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	本学教員が講師として開催するため、外部講師を招くより、報酬費がとてども低く開催できている。 本学教員が講師として開催していることで、コストの大部分を占める報酬費を抑えられているため、他の効率的な方法は見当たらない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	令和元年度アンケートでは受講者の60%以上が「参考になった」と回答しており、一定の効果がある。 また高校生の受講生には薬学に関心を持ってもらう良い機会となる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受講料は1回あたり500円と、文部科学省が公表する公開講座受講料設定調査の約3割を占めた「1000円未満」に該当しており、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	報酬費を抑えて低いコストで開催ができており、令和元年度から当日参加の受講も可能としたことから、全講義延べ人数263人となり、減少傾向が見受けられる受講者数を増やすことができた。